

第17回 中之島映像劇場
NAKANOSHIMA SCREEN

回想の 岩佐寿弥

2019

3.23 (土)

3.24 (日)

国立国際美術館 地下1階講堂

参加無料 全席自由、先着130名

各プログラム(及び特別講演)入れ替え制

各日10:00から当日の各プログラム(及び特別講演)の整理券を配布(1名様につき1枚)

3/23 (土)

13:00・A 《ねじ式映画 私は女優?》

15:20・特別講演 講師:岡田秀則(国立映画アーカイブ主任研究員)

16:30・B 《叛軍 No.1》《叛軍 No.2》《叛軍 No.3》《叛軍 No.4》

3/24 (日)

12:30・C 《眠れ蜜》

14:40・D 《オロ》

主催:国立国際美術館、国立映画アーカイブ

特別協賛:木下グループ

協賛:ダイキン工業現代美術振興財団

 国立国際美術館
THE NATIONAL MUSEUM OF ART, OSAKA

回想の岩佐寿弥

Hisaya Iwasa Retrospective

岩佐寿弥は、フィクションとドキュメンタリーの境界を自在に踏み越える作品を遺した、異端の映画作家です。岩波映画製作所時代から「青の会」のメンバーとして歩みをとともにした土本典昭や小川紳介らが、社会問題や苛烈な闘争の現場に身を置き、革新的なドキュメンタリーを生み出したのに対し、岩佐はシネマ・ヴェリテの方法を先鋭化させ、日常の足場にある虚実の皮膜を見つめ直すことで、映画の未踏地を開拓し続けました。本上映会では、1960年代末から70年代に発表された監督作品を中心に、近年発掘された「叛軍」シリーズのNo.1～No.3(1970-1971年)も上映します。晩年の傑作《オロ》(2012年)もあわせて上映し、特に関西で回顧される機会が少なかった岩佐の映画の再発見を進めたいと思います。

[アクセス] 京阪電車中之島線「渡辺橋駅」(2番出口)から南西へ徒歩約5分／Osaka Metro四つ橋線「肥後橋駅」(3番出口)から西へ徒歩約10分／JR「大阪駅」、阪急電車「梅田駅」から南西へ徒歩約20分／JR大阪環状線「福島駅」、東西線「新福島駅」(2番出口)から南へ徒歩約10分／阪神電車「福島駅」(3番出口)から南へ徒歩約10分／Osaka Metro御堂筋線「淀屋橋駅」、京阪電車「淀屋橋駅」(7番出口)から西へ徒歩約15分／大阪シティバス「大阪駅前」から、53号・75号系統で、「田養橋」下車、南西へ徒歩約3分

当館には専用駐車場はありません。ご来館は電車・バス等をご利用ください。心身に障がいのある方で、車で来館される場合は、当館北側の有料駐車場をご利用くださいますようお願いいたします。



国立国際美術館

THE NATIONAL MUSEUM OF ART, OSAKA

お問い合わせ
TEL: 06-6447-4680(代) <http://www.nmao.go.jp/>
〒530-0005 大阪市北区中之島 4-2-55
4-2-55 Nakanoshima, Kita-ku, Osaka 530-0005

国立国際美術館では、本上映会時に次の展覧会を開催中です。
「クリスチャン・ボルタンスキー — Lifetime」, 「コレクション3」
会期: 2019年2月9日(土)～5月6日(月・休)

3月23日(土)

冒頭、当館客員研究員より企画の解説を行います。

13:00・A program 《ねじ式映画 私は女優?》(35mm、100分、1969年、国立映画アーカイブ蔵)

製作:シネマ・ネサンス 監督:岩佐寿弥 撮影:佐藤利明、浅井隆夫
出演:吉田日出子、清水紘治、佐藤 信

68年という政治の季節、女優の吉田日出子を中心軸に、公演準備を進めている〈自由劇場〉の俳優たちや演出家を撮影した岩佐のデビュー作。ドキュメンタリーの枠組みを用いながら、予め場面の持続時間を表示するなど、「映画」そのものを意識化させる実験が随所に現れる。



《ねじ式映画 私は女優?》

15:20・特別講演 講師:岡田秀則(国立映画アーカイブ主任研究員)

「岩佐寿弥—ドキュメンタリーの彼岸を見た人」 「叛軍」シリーズを中心に

16:30・B program 《叛軍》(シリーズ4作品を上映、すべて国立映画アーカイブ蔵)

反戦自衛官・小西誠の裁判経過をおさめたシネトラクトのシリーズ。行方がわからなくなっていたNo.1～No.3のフィルムが、近年監督の旧宅で発見された。No.4の戦時中反乱罪を問われた元二等兵の講演とされる記録には、驚嘆の仕掛けが加えられている。

《叛軍 No.1》(16mm、22分、1970年) 製作:「叛軍」製作集団 監督:岩佐寿弥 出演:小西誠

《叛軍 No.2》(16mm、28分、1970年) 製作:「叛軍」製作集団 監督:岩佐寿弥 出演:演劇集団「兆」

《叛軍 No.3》(16mm、9分、1971年) 製作:「叛軍」製作集団 監督:岩佐寿弥 出演:小西誠

《叛軍 No.4》(16mm、96分、1972年) 製作:「叛軍」製作集団 監督:岩佐寿弥 撮影:堀田泰寛
録音:岡本光司 出演:和田 周、最首 悟



《叛軍 No.1》



《叛軍 No.2》



《叛軍 No.3》



《叛軍 No.4》

3月24日(日)

冒頭、当館客員研究員より企画の解説を行います。

12:30・C program 《眠れ蜜》(16mm、101分、1976年、国立映画アーカイブ蔵)

製作:シネマ・ネサンス 監督:岩佐寿弥 脚本:佐々木幹郎 撮影:田村正毅
出演:長谷川泰子、吉行和子、根岸とし江(季衣)、石橋蓮司、岸部シロー、和田 周

3世代の女優がそれぞれ「自分自身」を演じる映画。デビュー間もない根岸とし江が出演し、石橋蓮司のインタビューを受ける第1部、雪の小樽で映画撮影中の吉行和子が、かつての恋人と再会する第2部。そして、中原中也、小林秀雄らとの関係で知られる長谷川泰子が登場し、鬼気迫る存在感を発揮する第3部からなる。



《眠れ蜜》

14:40・D program 《オロ》(HD、108分、2012年) [終了予定 16:30]

監督:岩佐寿弥 プロデューサー:代島治彦 撮影:津村和比古
音楽:大友良英 整音:滝澤 修 制作:スコブル工房
企画・製作:オロ製作委員会

6歳の時に母親に送り出され、チベットからヒマラヤを越えてインドのダラムサラにやってきた少年・オロのドキュメンタリー。同じ境遇のチベット人たちとともに成長を遂げ、生きる道を探していくオロの姿を追いかけた、岩佐寿弥による最後の映画。



《オロ》

監督プロフィール

岩佐寿弥 Hisaya Iwasa
(1934-2013年)

1959年に岩波映画製作所に入社し、黒木和雄、土本典昭、小川紳介たちと運動体「青の会」に参加。やがてフリーになり、60年代末から《ねじ式映画 私は女優?》(1969年)、「叛軍」シリーズ(1970-1972年)、「眠れ蜜」(1976年)などの野心的な映画を発表していく。その後テレビ番組の製作にたずさわるが、2000年以降からチベットとその難民の映画を撮り続け、「モウモ チェンガ」(2002年)、「チベット2002 ダラムサラより」(2002年)、「オロ」(2012年)などを発表する。2013年に不慮の事故により急死。